

れきしみち



ちゃぶ台囲んで (2009)

P2 特集

特別展

昭和の家族

—安部朱美 創作人形展—

2024.1
No.131

P4 … 第13回松平シンポジウム報告

P6 … 連載「安城歴史散策 風を感じて歴史を歩く17」

P7 … 特別展関連イベント／和モノフェス

P8 … 令和5年度博物館実習報告
市民ギャラリーよりお知らせ



かあちゃんよんで (2007)

令和5年度 博物館実習 報告



令和5年度の学芸員実習は8月2日から10日のうちの6日間行いました。学芸員資格取得を目指す12名の実習生を受け入れました。当館の実習では、博物館業務や文化財行政、資料の取扱いを学ぶことができます。

実習生たちは当館及び隣接する市民ギャラリー・埋蔵文化財センターで実習を行い、歴史・考古・民俗・美術資料の取扱いを、実物資料を用いて学びました。普段の専攻分野以外の資料を扱うこともあり、幅広い経験を積んでもらうことができました。

実習中の大きな課題として、常設展示室の一部の展示替えがありました。今年度は弥生のムラのくらし、顔のメッセージ、近世の村の文化の展示替えを行いました。展示替えでは、グループで展示構成を考え、収蔵資料から展示資料の選定を行い、キャプションを作成しました。最後には展示資料の解説と展示意図を当館職員に説明し、評価を受けました。評価後には学芸員からのアドバイスを基に内容を修正し、展示替えを完成させました。

令和6年度も引き続き多岐にわたる実習内容を検討しています。博物館実習の中で幅広い資料を扱ってみたい、展示を組み立ててみたいという意欲ある方のご参加をお待ちしております。



令和6年度 博物館実習生の 募集

令和6年度の博物館実習の募集を行います。実習は令和6年7月31日から8月8日(8月3日～5日は休み)を予定しています。安城市歴史博物館のホームページより申込書をダウンロードし、安城市歴史博物館受付までご持参ください。
申込期間：令和6年2月1日(木)～2月29日(木)

安城市民ギャラリーよりお知らせ

市民ギャラリー開館20周年記念特別展 「大正イマジユリの世界」

- 【会期】令和6年1月27日(土)～2月25日(日)
- 【会場】安城市民ギャラリー 全展示室
- 【開館時間】9:00～17:00(入館は16:30まで)
※1月27日(土)は開会式のため10:00からの観覧となります。
- 【観覧料】500円(中学生以下無料)
- 【休館日】月曜日 ※2月12日(月・祝)は開館
- 【主催】安城市・安城市教育委員会
- 【監修】山田俊幸(元帝塚山学院大学教授)
- 【協力】大正イマジユリ学会
安祥文化のさと地域運営共同体
- 【企画協力】株式会社キュレーターズ
- 【助成】一般財団法人 自治総合センター
(コミュニティ助成事業)



竹久夢二
《唯我心悩ぞ知らぬ》
(セノオ楽譜27番)



岸田劉生
《白樺》
第12年5月号

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

【全館共通事項】

住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00～21:00
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

特別展 昭和の家族

—安部朱美 創作人形展—

令和6年

2/3^土 ~ 3/24^日

観覧料 | 600円 ※中学生以下無料 ※団体(20名様以上:480円)

休館日 | 毎週月曜日 ※2月12日(月・祝)は開館

開館時間 | 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

地縁

魚屋、駄菓子屋、自転車でのアイスキャンディー売りなどの日々の営みや、地域の行事など同じ土地に生まれ育った人々との絆。カミナリおやじや優しいおばさんなど、誰もが自分の家族を大切にすだけだけでなく、よその子も分け隔てなくかわいがっていました。愛情表現には、包み込むようなやさしさも、身のすくむような厳しさも含まれていました。



カミナリおやじ (2009)



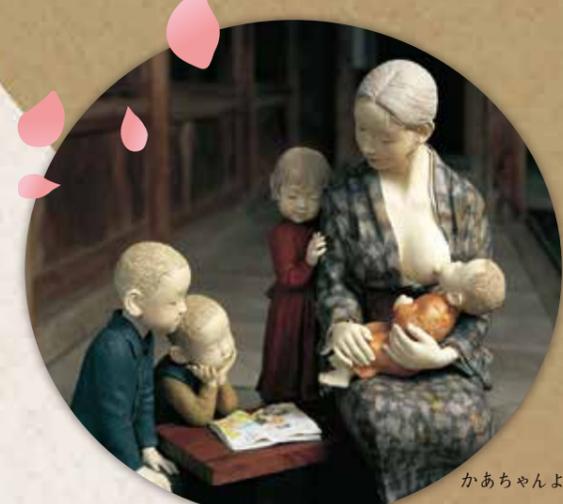
たき火 (2010)



アイスキャンディー屋 (2009)



記念写真 (2013)



かあちゃんよんで (2007)

鳥取県米子市在住の創作人形作家安部朱美氏は、粘土や和紙などを用いた創作人形を長年にわたり制作しており、平成十九年(2007)宝鏡寺門跡人形展五〇周年・人形作品公募展で大賞を受賞しました。その際の課題「和みのころ」で初めて昭和を意識した「かあちゃんよんで」を制作したことからは、昭和を背景にした人形を作り始め、以後昭和三十年代の家族の肖像を人形で表現しています。本展では、安部氏の、精巧であるだけでなくどこか懐かしさや温かみを感じる人形から昭和の人々のくらしをみていきます。

二十四の瞳

戦前から戦後にかけての瀬戸内を舞台に、女学校を卒業して小学校に赴任した女性教師と十二人の生徒とのふれあいを描いた壺井栄の小説『二十四の瞳』。この作品の情景を人形で表現します。



安部朱美
【創作人形作家】

- 1950 鳥取県生まれ
- 1981 独自の技法で創作粘土人形を作り始める
- 2007 《かあちゃんよんで》が宝鏡寺門跡人形展50周年記念公募展大賞
- 2010 《かあちゃんよんで》が国民読書年ポスターに採用
- 2010~ 全国巡回展開催
- 2017以降はパリ、台湾、ウィーンなど海外でも作品を紹介
- 2019 令和元年度 鳥取県文化功労賞受賞
- 2023 日本人戦犯思赦70周年記念式典(フィリピン)に招待され出席

おわりに

日本が貧しくも心豊かに過ごしていた昭和。本展では安部朱美氏の創作人形やその作品を見た、詩人谷川俊太郎氏によるオリジナルの詩によって、昭和の家族の肖像や、人々の営みを紹介していきます。また、ロシアによるウクライナ侵攻やパレスチナ問題などの緊迫する世界情勢を憂い安部氏が創作した作品も本展で初出品されます。現代の私たちが忘れてしまいつつある、家族や友人、または同じ土地で生きる人々との「きずな」の大切さを再発見してはいかがでしょうか。

(文責:野上真由美)



兄ちゃんが守ってやる (2023)

家族

夏の縁側や囲炉裏端での家族の時間。愛しい子供をつめる母のまなざし、大樹のような祖父の愛情に守られて子供たちはすくすくと育っていきました。ときに喧嘩しながら、仲良くいたわり合う兄弟姉妹。そんな何気ない昭和の家族のくらしがうかがえます。

ともだち

チャンバラ、ペーゴマ、まりつき。昭和の子供にとって野原は学び場でした。遊びのルールから喧嘩の仕方、仲直りの方法まで思う存分学ぶことができました。ここでは、昭和の子どもの達の日々のくらしの一場面をみていきます。



チャンバラ (2009)



泣いちゃった (2009)



まりつき (2009)



肩たたき (2009)



あたらしい家族誕生 (2009)



ちゃぶ台囲んで (2009)

秀吉家康入魂

徳川家康と豊臣政権

令和五年十月一日、へきしんギャラクシープラザにおいて、第一三回松平シンポジウム「秀吉家康入魂 徳川家康と豊臣政権」を開催しました。



前回の第一
二回「門徒久敷断絶す」と時期が重複しながら、本能寺の変（一五八二年）から小田原の役（一五九〇年）までのおよそ九年間の家康と豊臣（羽柴）秀吉の関

令和五年 10月15日(日) 13時〜17時
会場へきしんギャラクシープラザ マツバホール

ター(司会)に播磨良紀氏、パネリストには山本浩樹氏、谷口央氏を迎え、講演・報告、そして討論という形でシンポジウムが進められました。

基調講演
「豊臣大名 徳川家康」
播磨良紀氏(中京大学名誉教授)



これまでの秀吉と家康の関係は、それを中心に置いた史観に基づいて作り上げられたイメージである。そうした先

入観に捉われず、同時代史料から考察することが重要である。

本能寺の変後、織田信長の後継者問題における家康と織田体制の関わりについて、発給文書(書札礼)からみると、信長の頃と同様、信雄に対しても従属的な家康の存在が読み取れる。一方、この時期には家康が秀吉よりも上位にあり、両者の関係も良好であったと確認できる。

秀吉と信雄の関係悪化から生じた小牧・長久手の戦いは、両者の天下人を巡る戦いである。家康は、あくまで信雄の支援者であり、勝利したとしても天下人になりえない。

はないか。

シンポジウム

シンポジウムでは、各講演者同士で六つの質疑を提示され進められた。

まず、播磨氏による【①豊臣政権と本願寺教団の関係、三河本願寺教団への影響】の質問に対して、山本氏は「豊臣政権が本願寺の寺内特権を剥奪、介入していく様子が見える。天正十三年の家康の三河七か寺赦免もこうした緊張関係が高まった時期にあたり、家康も『いたずら者』等と称される人々を手なずける意味があったのではないかとした。

続いて、谷口・播磨両氏による【②『いたずら者』の存在と意味】の質問について、山本氏は「三河という強大な大名の境目の地域に生きるために単純ではないということに、真宗という要素が加わることで生まれた。家康の関東移封後は、豊臣系の諸將の新たな課題となった。全国的な資料でも目にするもので、教如を唆して約束を反故させた人々を指し、頭如方・教如方の両者が罵り合う際にも使用した」とした。会場の山田邦明氏(愛知大学教授)は「『いたずら者』は従わない、引かない人の意味で良いのではないかと。自分の考えを持ち、言われたことをハイハイと聞かない人である。三河・遠江は国衆の世界であるため、個性が強く、よく言えば自信に満ちている。家康は『いたずら者』の社会に育ち、いつしか『いたずら者』になったと言え、それにより東国・京の人々と渡り合った」と評した。播磨氏も「『いたずら者』は山田氏と同じように権力に従わないという意味で、逆に言えばその存在自体が正しくないとも言えないのではないかと。地域の特徴として面白い

その後、たびかさなる人質等の要求を拒否した家康に対し、秀吉は三河出陣を計画した。この計画は中止されたが、その理由は天正地震ではなく、信雄の斡旋によって回避されたものであることはおさえておきたい。また、朝日姫の興入れの延期、大政所の岡崎下向について、家康有利で交渉が進行したと考えるむきもあったが、近年では家康の真田氏攻め、家康上洛の安全保障の結果と理解されている。

家康が上洛して豊臣大名に列したことは、強大な大名を臣従させるデモンストレーションにあたる。こうした強大な大名を取り込むことは他の大名にも影響を与え、少数の一族・家臣等に基づく豊臣政権の限界性を補う役割を果たした。あわせて、家康にとっても織田体制下の従属関係から脱却し、豊臣政権のナンバー2として支えたことで、秀吉死後に天下人になる土壌が生まれたと評価できる。

基調報告①
「三河真宗の復活と徳川家康の三河支配」
山本浩樹氏(龍谷大学教授)



天正八年(一五八〇)三月、信長と本願寺が講和した石山合戦の終結からみると、織田・豊臣・徳川の武家権力と本願寺教団、在地社会の動向が理解しやすい。

「大坂拘様」と呼ばれる、本願寺新門主教如による頭如退去後の大坂籠城続行によって、事実上の本願寺教団の内部分裂を引き起こした。頭如方は、教如を唆した『いたずら者』を非難しているが、その後の史料をみると、『いたずら者』は三河の本願寺門徒の一問題提起」とした。

播磨氏による【③小牧・長久手の戦いと織田体制】の質問に対し、谷口氏は「小牧・長久手の戦いは、秀吉が織田体制から脱却しようとした点で播磨氏と同じ意義を見出した。一方で織田信雄の存在は無視できず、本当の意味で織田体制からの脱却は信雄が改易された天正十八年小田原の役後と考えることもできる」とした。

山本氏・播磨氏による【④秀吉と関東奥惣無事】の質問に対し、谷口氏は「天正十四年無事」の質問に対し、谷口氏は「天正十四年段階では、秀吉は関東諸氏に対して家康に惣無事を命じたと伝えていた一方、同十六年九月二日『豊臣秀吉朱印状』では北条氏規が上洛していたことで、家康の役割は変わらないものの、秀吉が関東惣無事に最大の懸念であった北条氏への直接介入ができる状況に前進したことが読み取れる」とした。山本氏は「大名間の境目の確定と惣無事の徹底という視点のほか、個別領主レベル、住民同士の境目というと検地によって確定していくものである。そして、それは軍事動員の地ならしでもあるので、関東・奥羽の次に唐入りに繋がることも視野に入れていく必要がある」とした。谷口氏は「その意味でも三河のように『いたずら者』の存在で思い通りにいかない面白さがある」とした。播磨氏は「境目の確定と上洛を惣無事の定義とした点で斬新であった。ただし、上洛と惣無事を結び付けて良いかは疑問がある」とした。それに対して谷口氏は「北条氏政・氏直ではないものの、北条一族を上洛させた点で秀吉の惣無事が前進したと評価し、またこれが伊達政宗に伝わっていることも加味して、若干強い意味合いを持たせている。また、今回のテーマが家康であることから上洛による臣従に大きな意味があった」とした。

部の人々を指す用語として多用されており、本報告のキーワードとなる。

本願寺は、前関白の近衛前久による天正八年七月二十四日「三ヶ条之儀」(三ヶ条五項目。本願寺文書)にある寺領を含めた還住等の実現のため、信長等に対して進物・礼銭等から交渉した。しかし、本願寺教団への警戒心からなかなか進展しない様子は、三河本願寺教団の復活への道のりと共通する。

三河本願寺教団は、天正十年五月の家康の堺見物の際の進物から始まったが、三河一向一揆の影響から三河七か寺の還住が許されたのは同十三年十月のことである。これは家康と秀吉の軍事的緊張の高まりも要因の一つであり、かつ家康の「勘気」を受けた者は寺内に入ることが禁止されたように不入権を制限された内容であったこともおさえておきたい。

家康が三河本願寺教団に対して礼銭、材木京上(家康の京都屋敷建立に用いる材木の運搬)等の執拗な財政負担を強いたのは、三河一向一揆時に君臣関係よりも宗教にみる師弟関係を重視する気風に着目したものとみられる。一方、家康への礼銭の実務を務めた平地御坊の山本為次の不正を家康に讒訴した「おそろしき人」(徒者)、または「偏執の方」と表現された一部の門徒は、「境目」の領主松平氏、三河武士団にも通じる気風、遅しさが読み取れる。さらに、三河本願寺教団への家康の対応から、家康自身もかなりの「徒者」であったと言えるのではないかと。

基調報告②
「天正壬午の乱から惣無事へ」
谷口央氏(東京都立大学教授)

本報告は本能寺の変後、家康の関東における立ち位置を確認することを目的とする。

山本氏による【⑤秀吉の全国支配】の質問に対し、播磨氏は「文禄四年(一五九五)秀吉事件が重要で、その直後の秀吉朱印状で東国は家康、西国は毛利輝元という表現がある。また、遺言状には北国は前田、畿内が豊臣家蔵入とある。こうした構想がいつからあったか検討は必要だが、家康を東国支配の要と考えていたのではないかとした。山本氏は「秀吉事件は大きな動揺となり大大名を参画させる動きがあったが、五大老・五奉行に対して本音と建前が違ったのではないかとした。播磨氏は「跡部信氏の研究で文禄年間初めには利家・家康の二大老制が一次史料から確認できる。そうした点のさらなる追求が必要」とした。

谷口氏による【⑥小牧・長久手の戦いと織田信雄】の質問に対し、播磨氏は「天正十一年後半に織田信雄が尾張下国した背景と、秀吉がどのような権限で帰すことができたのかについて、小牧・長久手の戦いが起こる前の詳細をみていく必要がある。展望としては、賤ヶ岳の戦い後に秀吉が朝廷に接近したが、そこで官位・官職を得たために信雄他の宿老との関係性も変化したのではないかと考えている」とした。

講評として会場の平野明夫氏(國學院大學講師)は「権力・派閥争いが『いたずら者』の表現になったのではないかと。また、織田信雄の位置づけが重要で、家康にとって小牧・長久手の戦いの中で実力差を感じて織田体制と決別したのではないかと。また、天正壬午の乱で滝川一益・河尻秀隆の動向から消去法で家康に東国惣無事を担わせたとも考えられる」と結んだ。

(文責:西島庸介)



家康は信長の弔い合戦に動くも山崎の合戦で秀吉が明智光秀に勝利すると、甲斐・信濃・上野における旧織田領の争奪戦

(天正壬午の乱)へと目を向けた。このとき、家康は織田家中の代表、織田体制を引き継ぐ存在として参戦した。その上で、北条氏と和睦を結ぶ際、家康が関東諸氏と連絡を取ることを条件としたように、家康独自の関係を持つようとしたことが伺える。また、このときの秀吉は「なおざり無い」関係の家康を通じて、関東の「無事」を指示したことも確認できる。

天正十二年の小牧・長久手の戦いにおいて、信雄と結んだ家康は北条氏等と連携したのに対して、秀吉は反北条氏と結び、上杉景勝をその代役として立てた。ただし、戦いが終わった翌十三年正月十七日佐竹義重書状にみるように秀吉方の関東諸將も家康との関係を保とうとしている様子が読み取れる。なお、小牧・長久手の戦い後、「信長以来」という文言がなくなったことは、秀吉が織田体制から脱却しようとしたものとみられる。

秀吉と家康との和睦が成立した天正十四年になると、秀吉は惣無事の対象地域を関東から奥羽まで広げ、かつ関東諸氏には境目の確定を指示している。さらに、秀吉は同年十一月に上洛を果たした家康に東奥惣無事

の役割を担わせた。秀吉の求めた東奥惣無事は領地確定と上洛による臣従であり、それを担うことになった家康は豊臣政権の東国支配に欠くことができない存在であった。天正十八年の家康の関東移封もそうした前段を踏まえれば、また別の視点で考えることができるので

特別展

昭和の家族

—安部朱美 創作人形展—

期間 2月3日(土)～3月24日(日)

関連イベント



安部朱美ギャラリートーク&サイン会

[日 時] 2月3日(土)・3月24日(日) ①11:30～②14:00～

[場 所] 歴史博物館企画展示室(要観覧料)

※サインは当日、会場でお買い求めいただいた図録のみとします。(1人1冊) ※各回先着20名まで。参加の際、観覧料が必要になります。

歴博福よせ雛

特別展「昭和の家族-安部朱美創作人形展-」にちなみ、安城の「昭和の家族」の暮らしの様子を雛たちが表現します。



[期 間] 2月3日(土)～3月24日(日)

[場 所] 歴史博物館 エントランスホール

和菓子職人に教わる 季節の和菓子づくり

「練り切り」「羽二重餅」など昔から親しまれている和菓子づくりを教えてください。

[期 間] 2月10日(土) 14:00～16:00
[講 師] 清水崇司氏(両口屋菓匠三代目)
[参加費] 800円
[場 所] 体験学習室
[定 員] 16名(事前申込み先着順)
[申 込] 1月20日(土) 9:00～電話受付



昭和の遊び体験

コマ回し、けん玉、お手玉など昭和の昔ながらの遊びが体験できます。

[期 間] 2月3日(土)～3月24日(日)
[場 所] 歴史博物館エントランスホール



外遊びDAY

[日 時] 2月17日(土)、2月24日(土)、3月17日(日)、3月24日(日)
上記の4日は外遊びも実施 各日とも10:00～12:00

[場 所] 安祥城址公園 ※雨天中止

三河の伝統食 箱ずしを作ろう

箱に入れて作ることから呼ばれる愛知の郷土食である「箱ずし」。専用の木箱に詰めた寿司飯の上に野菜などの具を彩りよく並べて作ります。

[日 時] 3月2日(土) 10:00～12:00
[講 師] 杉浦ひろ子氏(安城エプロン会)
[参加費] 1組1,200円
[場 所] 体験学習室
[定 員] 10組(事前申込み先着順)
[申 込] 2月10日(土) 9:00～電話受付



※定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合があります。最新情報はHPにてご確認ください。

申込み・問合せ 歴史博物館 TEL:0566-77-6655

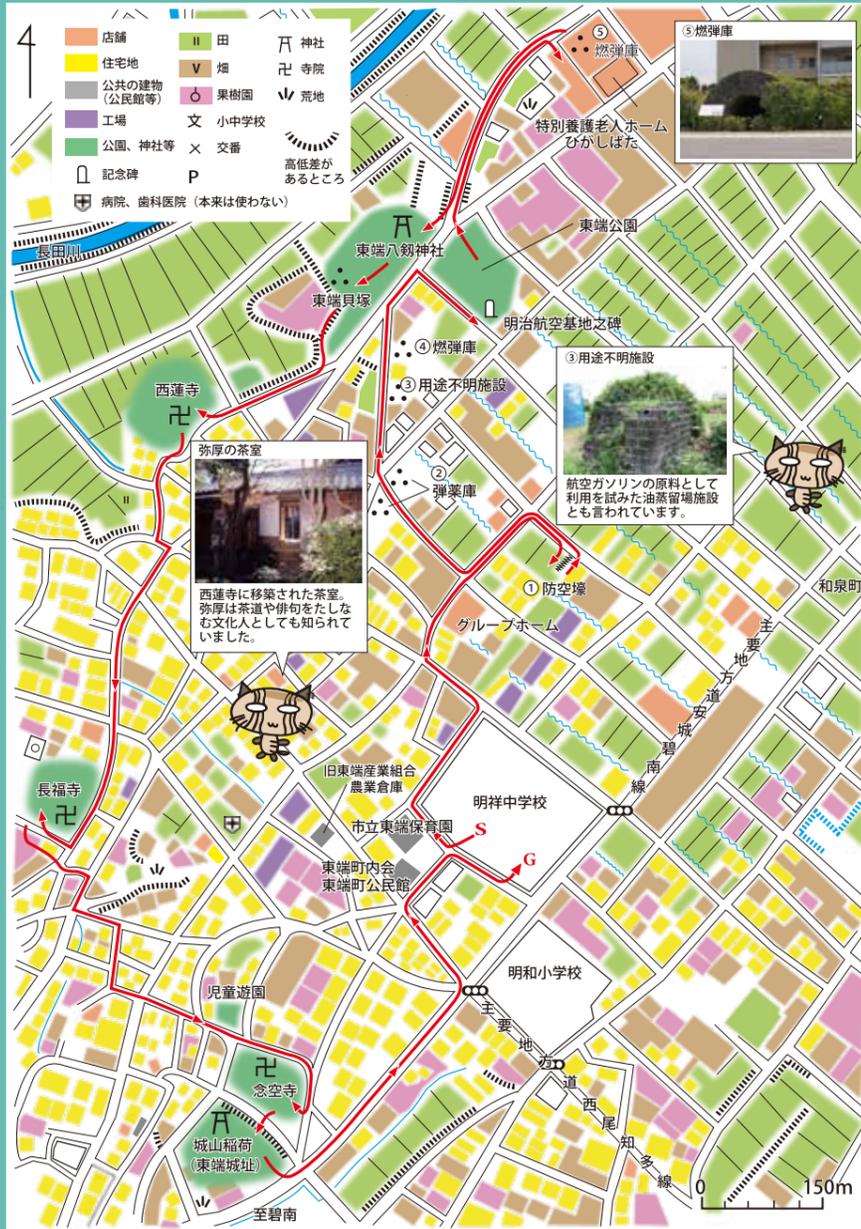


殺陣ショーや和太鼓、合唱の公演にマルシェの開催など、和にちなんだ催しを開催します。

3月9日(土)

10:00～15:00 場所：安祥城址公園

和エモン



今回と次回は私がお世話になった学区周辺の歴史散策コースではありませんが、三丁四丁の散歩には丁度良いコースを紹介します。

昭和六十年まで使用された明祥中学校の旧校舎は、基地本部の兵舎でした。

た。構築物の撤去は進み、確認できる史跡は少なくなりましたが今回はそのうちの五カ所を見て回ります。「防空壕①」「弾薬庫②」「用途不明施設③」「燃弾庫④・⑤」です。燃弾庫は、基地に配備された航空機に使用する燃料や弾薬を空襲から守るために構築されました。本来は、全体が土でカムフラージュされていたはずでしたが、表面をおおって

いた土はほとんど残っていません。特に、⑤の燃弾庫は貴重な歴史遺産というところで取り壊しを免れ、特別養護老人ホームの施設内にありますが近くで見ることができません。この明治航空基地は実戦用の新鋭機を使いこなせるようにするための錬成教育の場であり、若い搭乗員が多くいました。隊員は地域の方との交流があり、昭和二十年二月に発生した三河地震の際には、被害にあった地元住民の支援も行いました。

たという経緯があります。西蓮寺から、現在はアジサイの寺として知られている長福寺に寄り東端城址に向かいます。東端城の築城年は定かではありませんが、家康の下で功績をあげた永井(長田)直勝が城主をしていたことが知られています。直勝は、関ヶ原の戦い、大坂冬の陣・夏の陣の活躍で上野国小幡藩主となり、東端城から転出ししました。このことにより東端城は廃城となりました。廃城後四百年以上になりますが、当時の曲輪の状況はよく残っています。主曲輪は、方形あるいは台形に近い形で高さ八〜一〇メートルの土塁に囲まれています。見晴らしのよい城址南西部に立つと、戦国時代の城らしく防御上有利な地点に築かれたことが分かります。

東端八剣神社周辺と西蓮寺
神社の沿革について不明な部分もありますが、今ある本殿も一八世紀初頭、江戸時代中頃の建立と推定される歴史ある貴重な建築物です。神社境内、南の林の中に貝塚が見られます。これは、東端貝塚と名付けられ、油ヶ淵(旧北浦)を望む長田川そばの標高六〜八メートルの台地上に立地する縄文時代の晩期から弥生時代前期の貝塚です。浄土真宗の寺である西蓮寺には、貴重な文化財が幾つかあります。本館の常設展示室でも複製ではありますが、西蓮寺の「光明本尊」が見られます。また、県指定の「南蛮屏風」も所蔵しています。作者は不詳ですが、狩野派の系譜に位置づけられ、一七世紀前半の制作とみられています。また、西蓮寺の茶室は、和泉村の都築弥厚郎から移築されたものです。都築家から茶室一棟を譲り受けた東端村の方が西蓮寺へ寄付し

東端城址に立つて
西蓮寺から、現在はアジサイの寺として知られている長福寺に寄り東端城址に向かいます。東端城の築城年は定かではありませんが、家康の下で功績をあげた永井(長田)直勝が城主をしていたことが知られています。直勝は、関ヶ原の戦い、大坂冬の陣・夏の陣の活躍で上野国小幡藩主となり、東端城から転出ししました。このことにより東端城は廃城となりました。廃城後四百年以上になりますが、当時の曲輪の状況はよく残っています。主曲輪は、方形あるいは台形に近い形で高さ八〜一〇メートルの土塁に囲まれています。見晴らしのよい城址南西部に立つと、戦国時代の城らしく防御上有利な地点に築かれたことが分かります。城址隣の念空寺は浄土真宗の寺で、「方便法身尊像」「六字名号」などの市の指定文化財を多数所蔵しています。



市指定史跡、東端城址の主曲輪
文責：片岡 晃(安城市歴史博物館館長)

安城歴史散策

風を感じて歴史を歩く17 番外編①